

3. 大村市産業支援センター訪問のきっかけと支援

宮本：

そこから大村市より産業支援センターをご紹介いただいて、いらっしゃったのがきっかけなんです。

司会：

そうなんですか。大村市からのご紹介だったんですね。

司会：

最初お会いしたときのお互いの印象はいかがでしたか。

大石：

いやなんか、もう本当に私にはない、何て言うんでしょう、ハキハキとテキパキとそんなその印象がまずどんときまりました。いやなんかもう頼りになるみたいな私がスローな感じなの、で本当に何もわからなくて、これからどうしたらいいですか。。みたいな、もうそこから一步一步いろいろ教えてくれて、本当にありがたかったですね。

司会：

頼りになりますよね。センター長はいかがでしょう。

宮本：

ありがとうございます。私はまずその経緯からお聞きして素晴らしいなっていうのと、作品が一目見て本当に素敵でした。

大石：

ありがとうございます、

宮本：

驚きが最初に来て、この可能性をどうしていきましょう！ 一緒になってドキドキしちゃうっていう感じだったんですよ。

大石：

それは、すごく伝わりました。

もうなんかいろんなイメージをしましよって。

そうしようですよ。何かジャパンエキスポに行って、私の中では人生の最大の楽しみを味わって来た様だったので、もう終わりかなとか勝手に思っていたんです。けど、ずっとずっと続いていくものがあっていいなと思って。

宮本：

ここからですよって、お話をして一歩づつですよ。

司会：

センターではどんなことをされたんですか？

宮本：

長崎・折り鶴ってすごいブランド力あるんですよ。いい意味でも、そうでない意味でも、やはり被爆地でもありますし、折り鶴に込める思いもあります。

大石さんが折り鶴のピアスを作られている思いをお聞きして、そこはすごくリンクしている部分がありました。せっかくそういう共通の思いがある作品を作られており、しかもジャパンエキスポで既にグローバルになっていくかもしれない可能性があるものであれば、最初に知財、商標権を取った方が良いのではというお話をしました。

新しくつけた屋号のWakkaと、2.5センチ角を指で折ってらっしゃる（アクセサリーの中でもパイヤーさんの目に留まった）折り鶴のピアスに、お名前つけませんかというお話を、「ゆびおり小鶴」という素敵なお名前を考えられ、まずはこの二つの商標権を、INPIT（知財総合支援窓口）と連携支援して申請しました。

大石：

そうですね。こういうふうになるなんて思ってなかったので、本当こういう世界があるんだなと思って。

司会：

唯一のものになりましたね。

宮本：

そうなんです。このブランド力あるお名前は、もう大石さんでしか使えないですね。

大石：
すごく気に入ってるので大事にしていきたいです。

司会：
名前はどんなふうに決められたんですか。

大石：
暮らしに平和と花をっていうのが私の人生のテーマみたいところが昔からあり、ちょっと頭にあったものなんです。その和と華、私の大石華代の華が華やかかっていう字なので、それも入れたかったっていうのもありました。ただ、「和華」だと人の名前になってしまう、私が「和華」になってしまうみたいだなって思い、何かないかなって考えたときに、お友達が Wakka ってしたらどうだろうって提案してくれたんです。本当に気に入ってるんです。

司会：
全てが繋がりましたね。

大石：
そうですね

宮本：
この丸い輪をイメージさせる Wakka のロゴで一つは商標権を取りました。

司会：
お名刺いただきましたが、この Wakka の丸が素敵です。

大石：
ご縁を繋ぐとか、心と心は繋がっているんだよとか、その折り鶴から何かちょっとインスピレーションがあるんです。折り鶴が好きな理由はここかなって思ってます。